

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽 1階		
所在地	名古屋市港区六軒家1022番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371100666-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
聞き取り調査日	令和5年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設19年目を迎え、地域の方々に施設の存在を認識していただけるようになってきた。職員の離職も少なく、職員同士のみならず、地域の方々にも顔見知りとなるよう施設が存在できるようになってきている。共用型デイサービスを開設し、認知症利用者の在宅支援にも力を入れている。また、施設の周りは田んぼや畑が広がる環境で、利用者の皆様も、散歩などで景色を楽しみながら、生活することが出来ている。玄関先や屋上に上がるだけでも季節を感じ、快適に暮らすことを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を共有し実践に繋げている。 ・理念を理解し、心掛けてケアしている。 ・理念そのものを日常あまり意識していない。 ・実践に繋がられていない。 		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> ・以前はあったが、コロナの為今はない。 ・地域とのつながりは大切にしている。 ・地域で行事が行われれば、利用者は参加できないが施設として差し入れを入れる等行っている。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流は難しいが、状況に応じて対応している。 ・コロナ禍であり機会がない。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は書面で行っている。 ・コロナの為会議自体行っておらず話し合いがどうなっているかわからない。 ・意見をサービス向上に活かしている。 		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者、ケアマネージャーが行っている。 ・生活保護の利用者がいるため、保護係とは定期的に情報交換を行っており、困ったときや緊急時に円滑に事が運ぶよう努めている。 ・保護係からの入居の相談がある。 		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・身体拘束は絶対しない！と職員一同取り組んでいる。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待が見逃されないよう利用者とのコミュニケーションを取り、気持ちを聞いたり、小さな変化に気付く様心掛けている。 ・注意を払い、防止に努めている。 ・心理的虐待については声掛け言葉遣いが不安な面がある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会で学ぶ機会があったが活用することがない。 ・事業所として個々の必要性に応じ制度を活用し支援している。 ・身元保証を利用している利用者がいる。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者、ケアマネが行っている。 ・契約の際は契約書、重要事項説明書を読み合わせ、ご家族の表情等観察しながら不安や疑問が解消できるよう心掛けている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・電話連絡などを通して意見を聞いている。 ・コロナ禍で家族会議が開催されておらず家族との話し合いは出来ていない。 ・入所時の要望や意見は反映されている。 		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の会議で意見提案をし、反映させている。 ・1年に1回管理者と1対1で面接を設けられていて、意見を述べる機会がある。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働等改善されており、働きやすい環境である。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の機会を設けておられ、職員を育てよう努めている。 ・年に2回研修を受けスキルアップに取り組んでいる。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の為、同業者と交流する機会はなかなかない。 ・感染予防の為相互訪問等の活動は行っていない。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ耳を傾けるようにしている。 ・傾聴し、本人の言葉を聞くよう努めている。 ・本人の話をよくお聞きし、気持ちを受け止め、安心していただけるようなお声掛けをしている。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのご家族の立場や状況を理解し、要望に応えられるよう努力している。 ・限られた時間のなかでもなるべく関わられるよう努めている。 ・要望等に耳を傾け信頼関係が築けるよう努めている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・マッサージを取り入れたり、嗜好品の購入等を行っている。 ・自分で感じ取れることは実施している。 ・必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりを持って接し、押し付けにならないような関係を築いています。 ・利用者様のできる事を活かしながら共に支え合える関係を築けるよう努めている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で直接会えないがオンライン面会や日陽だより送付などで絆を大切にしている。 ・コロナ禍で出来ていない。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、知人は訪ねてこない。 ・コロナのため馴染みの場所に行くことはまずない。 		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けにより利用者同士が近づきすぎず孤立させないよう努めている。 ・利用者それぞれの考えや想いを理解し、利用者同士の良い距離感を保てるよう努めている。 ・利用者同士が衝突する前に声を掛けている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退所すると会うことはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・話をしながら意向、希望を把握できることはあるが全員は出来ていない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・利用者とコミュニケーションを取り、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。 ・主に入所時に生活歴等の把握に努めている。 ・入浴時等、1対1の介護の時に談話し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・普段と違うところはないか、歩き方、顔色を見たり、何となく元気がない等を見逃さないようにしている。 ・状態の記録や情報の共有に努めているが、不足しているところもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・介護目標や目的は初回から継続しているものが多い。 ・アセスメントとモニタリングを繰り返したり、本人や家族の意見を聞いて見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・情報量が少ない場合が多い。記録されていてもみていない、理解できていない場合がある。 ・日々の様子や実践、気づきを記入している。他の職員が記入したことで気になることがあったら直接話を聞いて相談し、よりよいケアができるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・気になったことは職員同士で話し合い見直しに活かしている。 ・管理者が対応している。 ・状態に変化があれば柔軟に対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・コロナ感染予防の為地域との交流がほぼなく、できていない。 ・地域交流の際はケガがないよう気を付けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・入所された時点でこれまでのかかりつけ医に係ることはなく事業所が連携を取っている医師がかかりつけ医になっている。 ・内科、皮膚科、精神科、歯科の定期的な訪問診療がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・出来ていると思うが、知識不足の為必要な情報が共有できない時がある。 ・気づいたことや利用者から不調の訴えがあったときには速やかに看護職に報告し、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院等の必要時に医療機関と協同するが、普段からの関係づくりは行っていない。 ・看護職に任せっきりである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・コロナ禍で本人家族の面会は難しいものの、チームでは取り組んでいる。 ・本人や家族の希望に添うにはどうしたらいいか職員同士で話し合い、実践している。自分に何ができるか考え本人、家族に悔いのないケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・研修に参加したり本を読んだりして実践できるようにしている。 ・行えていない。 ・上司に相談、自分ではできない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・訓練は行っているが全職員が身につけているかはわからない。 ・避難訓練に参加し、実践できるようにしている。 ・地域の協力体制はどのようになっているかわからない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・イライラして強く言葉を伝えてしまう。 ・認知症に対する不適切な声掛けを聞くことがあるがそれに対し注意できる環境でない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・本人の主訴は希望を伺うよう努めている。 ・コミュニケーションを取り自己決定、希望を話しやすい雰囲気を作っている。 ・トイレ、入浴、食事等施設の都合で合わせてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・自分で着脱できる利用者は着たい服を着ているが介助が必要な利用者はスタッフが選んでいる。 ・入浴や食事など集団生活の中で都合を合わせてもらう事が多いがその都度話しし理解を得るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・好みの服を着ていただきたいが暑い時に冬物を着る等の時は着替えてもらっている。 ・一人一人の好みを把握しその人らしい身だしなみをしていただけるよう努めている。 ・理美容師に本人の希望に応じてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・個々の力を活かしながらテーブル拭き等共に行っている。 ・好みを把握し食欲が湧くような配膳を心掛けている。 ・イベントの食事など楽しく食べられるよう援助している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・利用者の意志を尊重するよう努めている。 ・状態や能力に適した状態、適量を提供している。 ・水分や食事摂取量を毎回記入し、水分制限のある方への配慮も心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・食後に口腔ケアの声掛けを誘導している。 ・義歯は毎日義歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・布パンツへの移行や習慣を活かせる様トイレでの排泄を促し自立に向けた支援をしている。 ・歩行状態に合わせてトイレ近くの座席の移動や日中と夜間でオムツの使い分けなど介護士間で話し合い支援している。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・水分を摂っていただくようお声掛けしたり、一緒に歩行運動やストレッチをしている。 ・排便状況を把握し、便秘予防となるよう運動の働きかけ等努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・無理強いせず、声掛けにて入りやすい雰囲気を作っている。 ・予定は立ててあるが一人一人の希望やタイミング、要望があればできる限りここに添った支援に努めている。 ・職員の都合になっている。 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・体調に合わせてその都度休息して頂く様声掛けしたり、居室でお休みできるよう誘導している。 ・日中は時間を設けて休んでいただいたり、夜はご本人に合わせて入眠していただいている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日付・お名前を確認し、ご本人と一緒にもう一度確認している。 ・目的や用法、用量の理解をされておらずアクシデントにつながることもある。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・興味があることを話したり、好きな作業と一緒にいき充実感や楽しさを感じてもらえるようにしている。 ・外出制限がある中、畑での野菜収穫やおやつレク等実践している。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナのためほとんど外出できていない。 ・畑や散歩程度の外出しかできていない。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と相談し、合意を得て金銭をお預かりしている。 ・お金を使う機会がない為出来ていない。 ・お金を持っていないと不安になる利用者には少額持ってもらっている。 unnecessary 買い物後の対処も行っている。 ・お金を持っている利用者はいるが店が近くにない。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・電話がかかってきたら繋いでいる。 ・家族と電話をしているときはプライバシーに配慮しながら見守りをしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除を行い清潔にしている。窓の開閉やエアコンを使って快適な温度で過ごしていただけるよう心掛けている。 ・季節の花を飾ったり壁画を作成し季節感を取り入れている。飾ってある花がかびていることもある。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの前にソファを設置し気の合った利用者同士で話せるようにしている。 ・座席の配慮や個室の配置を考えながら工夫しているがトラブルも見かける。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーを大切に、ダンス、ベッド、いすなど安全に考慮しながらご本人の希望を取り入れて配置している。 ・使い慣れたダンスを持って来てもらったり、写真を飾ったり、衣類は本人が使いやすい様に工夫している。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの表示、各個室の明記等わかりやすくしている。 ・廊下にはモノは置いていないがリビングまわりにはいらぬものが多い。 		